

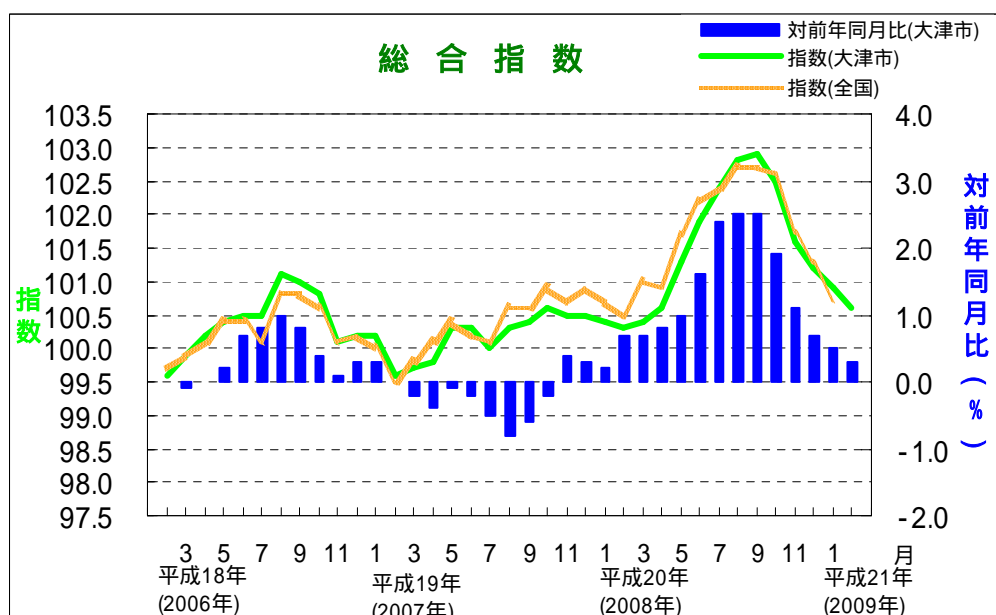
平成17年基準 **消費者物価指数（大津市）**
平成21年（2009年）2月分

（平成21年3月27日公表）

1. 平成21年2月分消費者物価指数（大津市）概況

	指 数	前月比(%)	前年同月比(%)	概 況
総合指数	100.6	-0.3	0.3	前月比で5か月連続の下落。 前年同月比で16か月連続の上昇、 上昇幅が前月(0.5%上昇)よりさらに縮小。
生鮮食品を除く 総合指数	100.2	0.0	0.0	前月比、前年同月比ともに変動なし。 前年同月比は、15か月続いた上昇 がとまり、横ばいとなった。
食料(酒類を除く) 及びエネルギーを 除く総合指数	98.7	0.0	-0.1	前月比で変動なし。 前年同月比で2か月連続の下落。

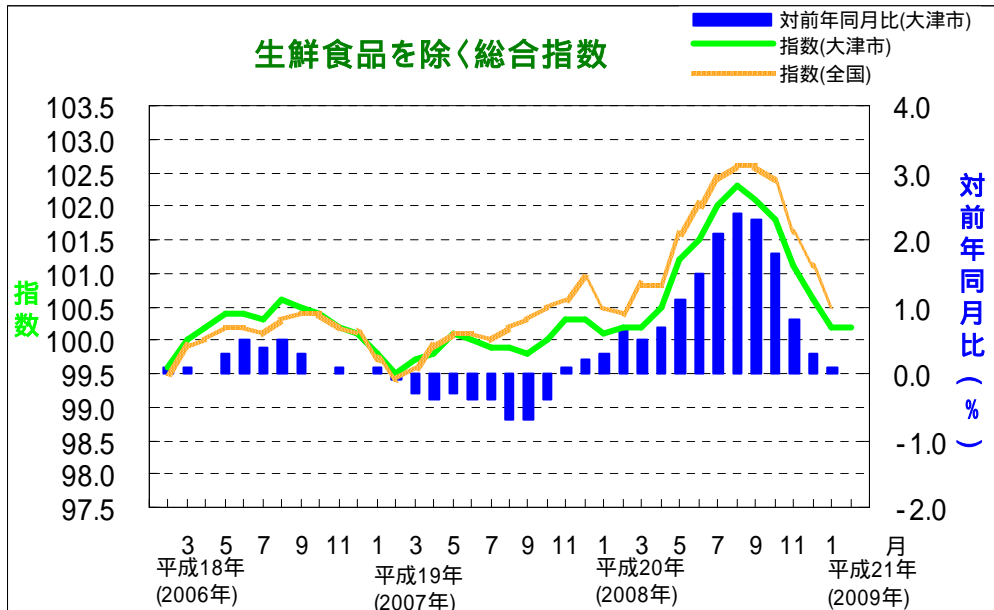
2. 総合指数と対前年同月比の推移



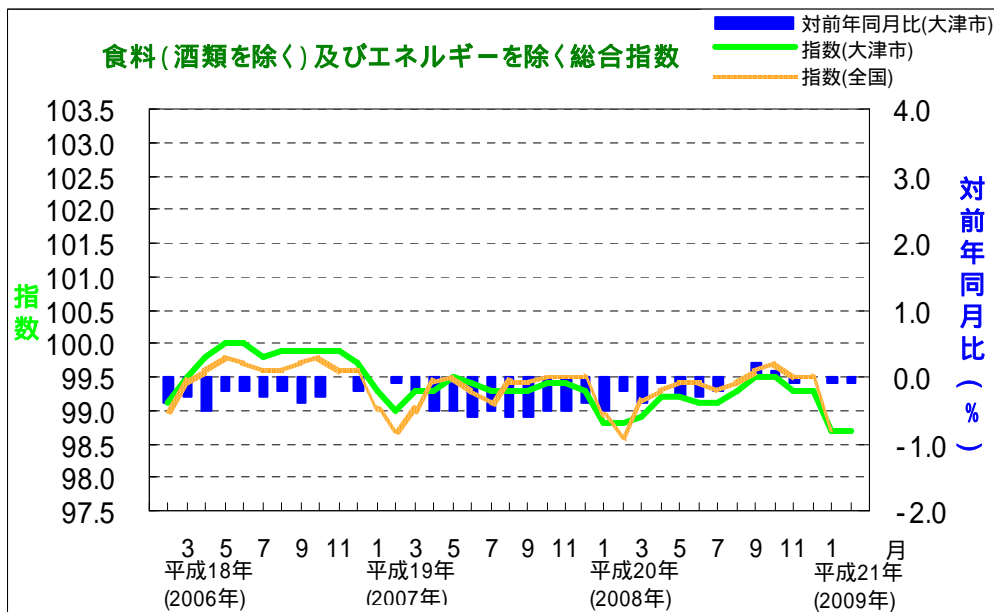
平成21年1月分公表から、総務省統計局の公表に準じ、「食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数」を概況の中でも掲載しています。

総務省統計局消費者物価指数（全国） <http://www.stat.go.jp/data/cpi/index.htm>

3. 生鮮食品を除く総合指数と対前年同月比の推移



4. 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数と対前年同月比の推移



「食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数」 = 「総合」 - 「食料」 + 「酒類」 - 「エネルギー」

「エネルギー」...電気代、都市ガス代、プロパンガス、灯油、ガソリン

区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度(*)	上昇率(%)	寄与度(*)
食 料	104.4	-1.4	-0.38	3.3	0.83
住 居	100.4	-0.1	-0.02	0.3	0.07
光熱・水道	106.8	-0.3	-0.02	3.5	0.23
家具・家事用品	97.4	-0.9	-0.03	-1.0	-0.03
被服および履物	93.7	-0.3	-0.01	-1.3	-0.05
保健医療	99.3	0.1	0.00	0.1	0.00
交通・通信	97.6	0.5	0.07	-5.2	-0.77
教 育	103.9	0.4	0.02	1.7	0.07
教養娯楽	93.6	-0.1	-0.01	-1.5	-0.14
諸 雑 費	102.2	0.1	0.01	0.1	0.01

* 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

6. 前月との比較

総合指数は100.6で、前月と比べると、生鮮野菜が10.2%、生鮮魚介が7.5%下落したことなどにより0.3%下落しました。最近の動きとして、平成20年2月から9月までの7か月間で2.6%上昇し、10月に8か月ぶりに下落に転じて以降、5か月連続の下落となっています。

生鮮食品を除く総合指数は100.2で、前月と比べて変動がなく、前月比で5か月続いた下落がとまり、横ばいとなりました。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.7で、前月と比べて変動がなく、前月に3年ぶりの大きな下落があったものの、今月は横ばいとなっています。

上昇した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

自動車等関係費[交通・通信] (+) 1.0%

下落した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

生鮮野菜[食料] (-) 10.2%

生鮮魚介[食料] (-) 7.5%

生鮮果物[食料] (-) 8.2%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品(生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物)については、小分類指数です。

7. 前年同月との比較

総合指数は、前年同月と比べると0.3%上昇しており、前月(0.5%上昇)より上昇幅がさらに縮小しています。上昇幅は10月に9か月ぶりに縮小して以降、縮小が続いています。上昇した中分類指数の主な項目をみると、ガス代(11.2%上昇)、穀類(8.5%上昇)、電気代(5.6%上昇)などの寄与度が高くなっており、上昇率では、10大費目の[光熱・水道][食料]が高くなっています。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べて変動がなく、15か月続いた上昇がとまり、横ばいとなっています。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、前年同月と比べると0.1%下落しており、2か月連続の下落となっています。

上昇した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

ガス代[光熱・水道]	(+)	11.2%
穀類[食料]	(+)	8.5%
電気代[光熱・水道]	(+)	5.6%
設備修繕・維持[住居]	(+)	3.6%
乳卵類[食料]	(+)	12.8%
調理食品[食料]	(+)	4.5%
生鮮野菜[食料]	(+)	7.3%
外食[食料]	(+)	1.8%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(+)	3.3%
肉類[食料]	(+)	2.2%
酒類[食料]	(+)	4.4%

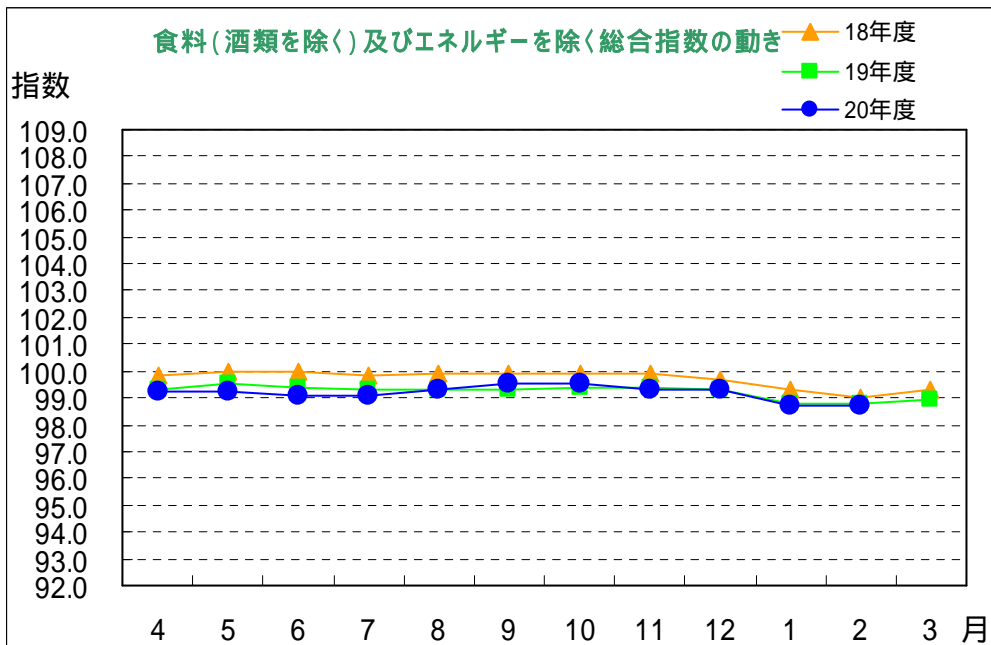
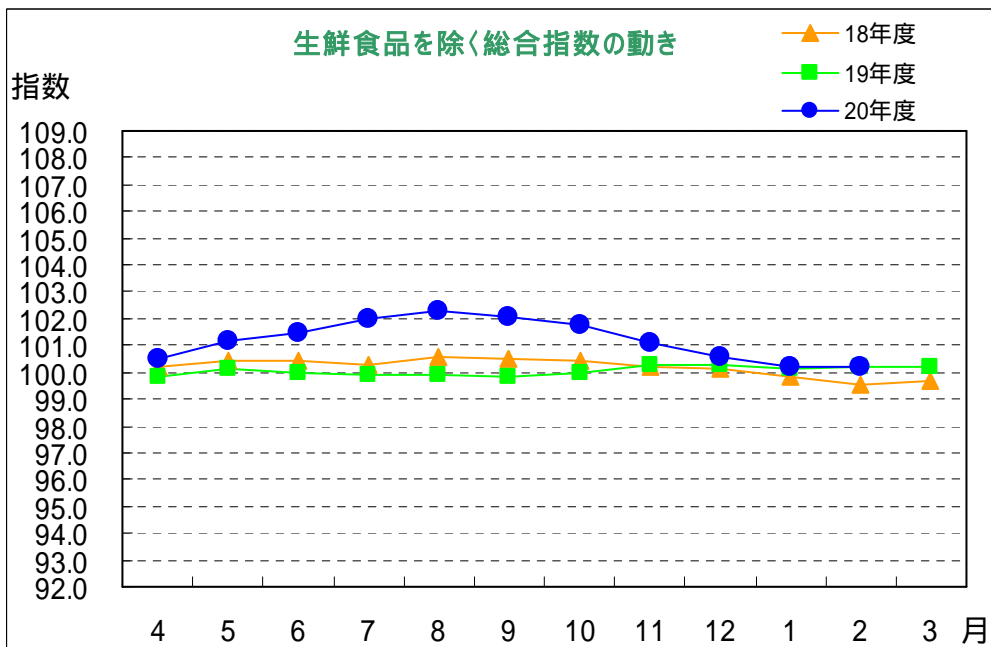
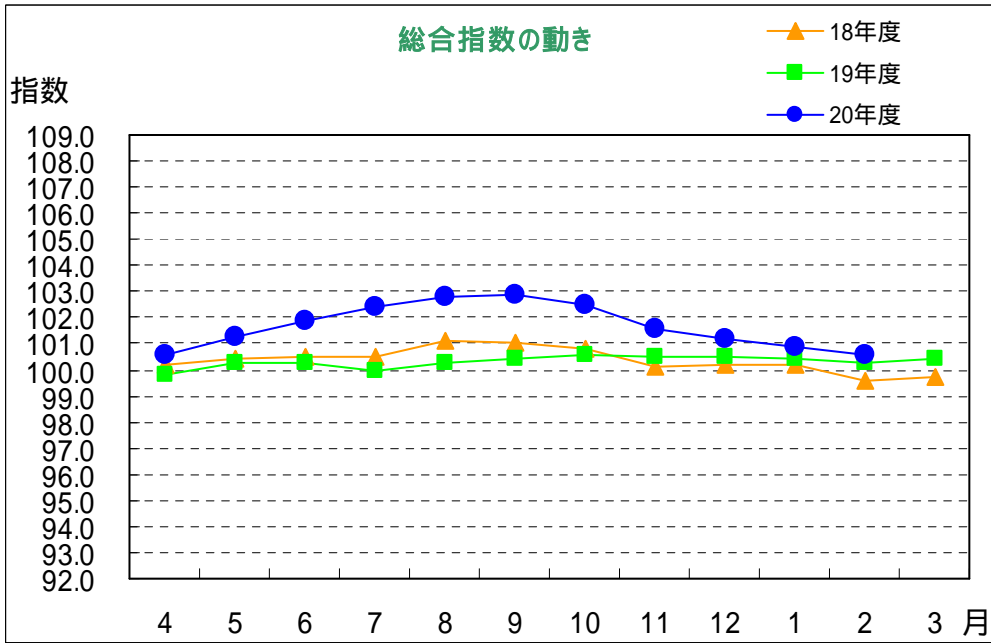
下落した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

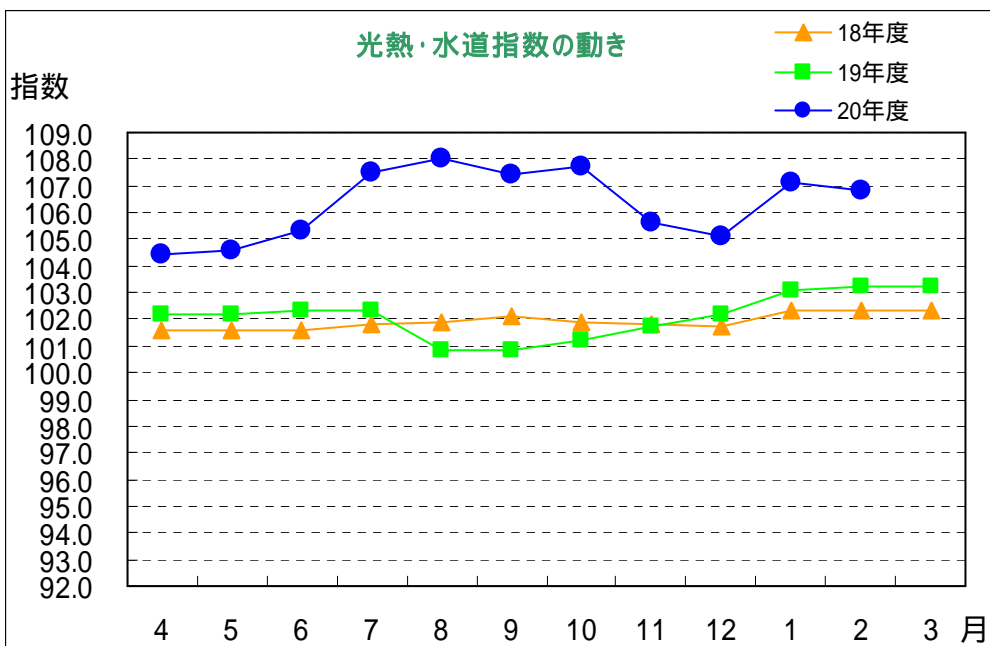
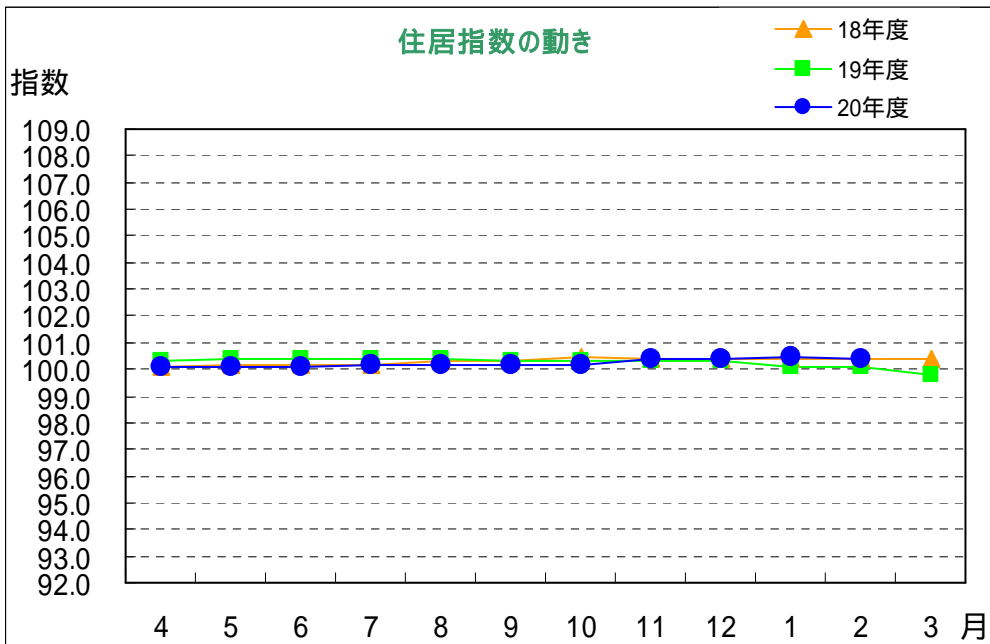
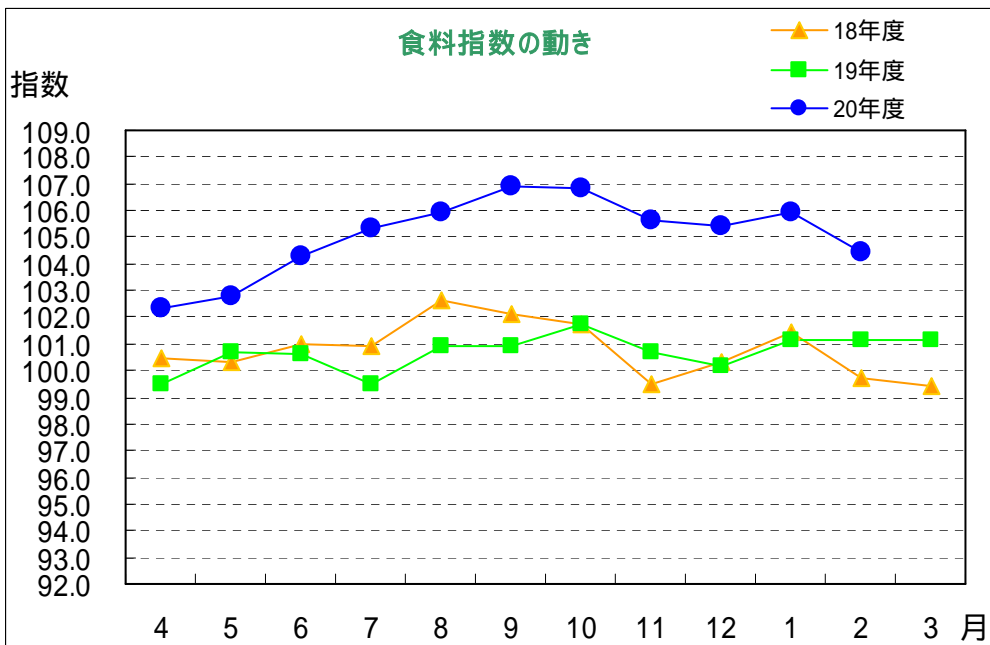
自動車等関係費[交通・通信]	(-)	8.5%
教養娯楽用耐久財[教養娯楽]	(-)	27.1%
他の光熱[光熱・水道]	(-)	26.3%
菓子類[食料]	(-)	5.1%

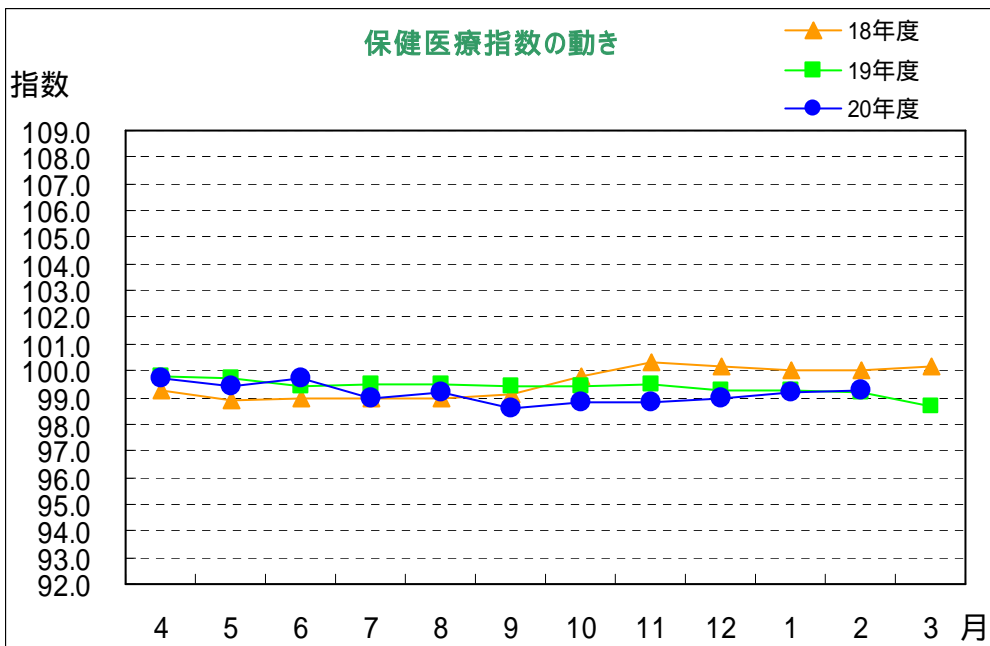
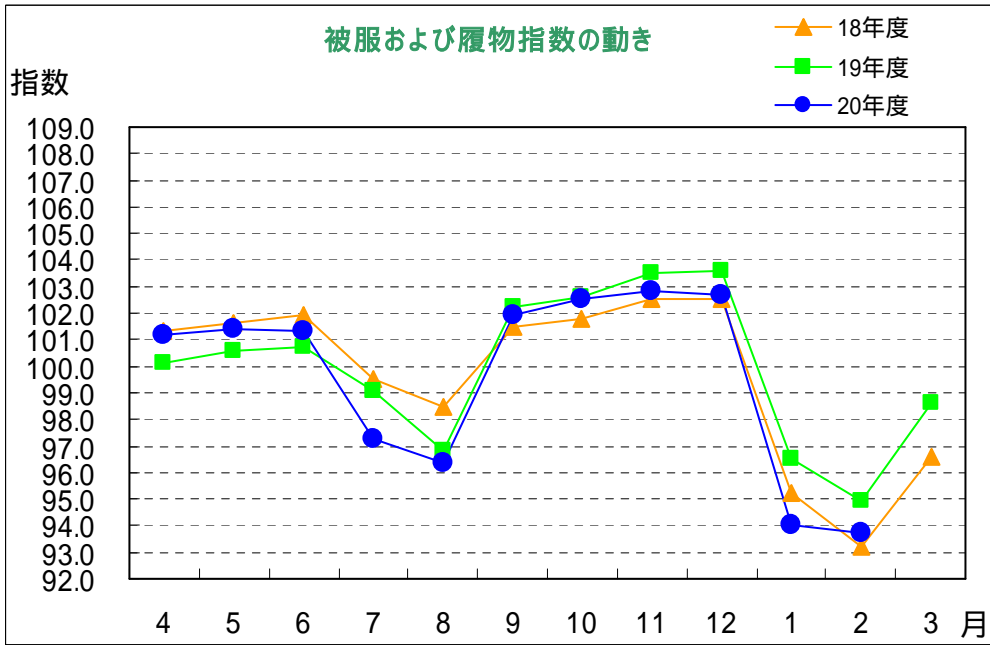
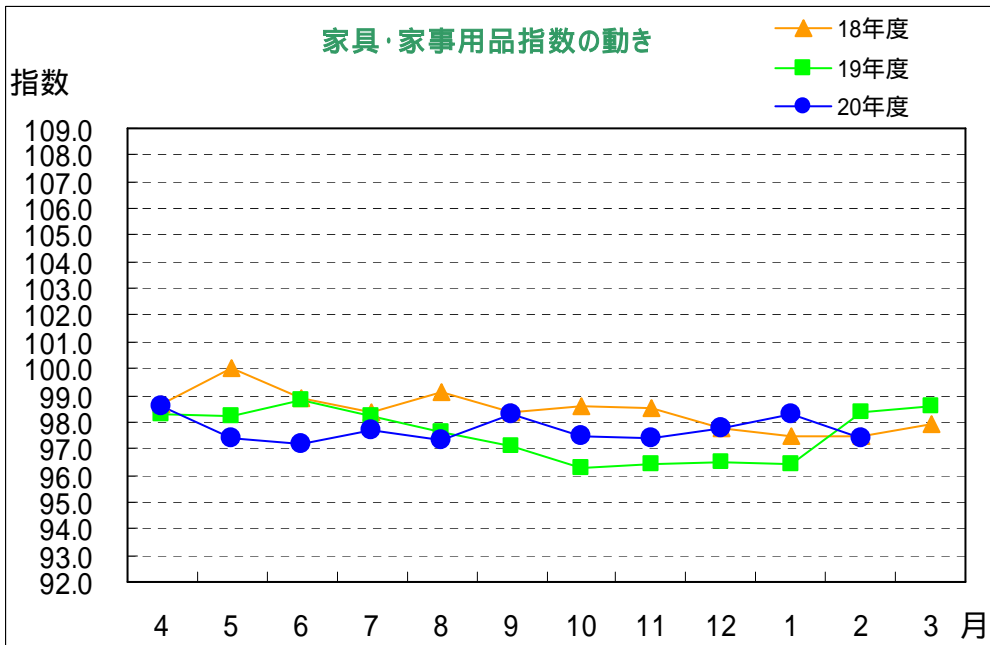
注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

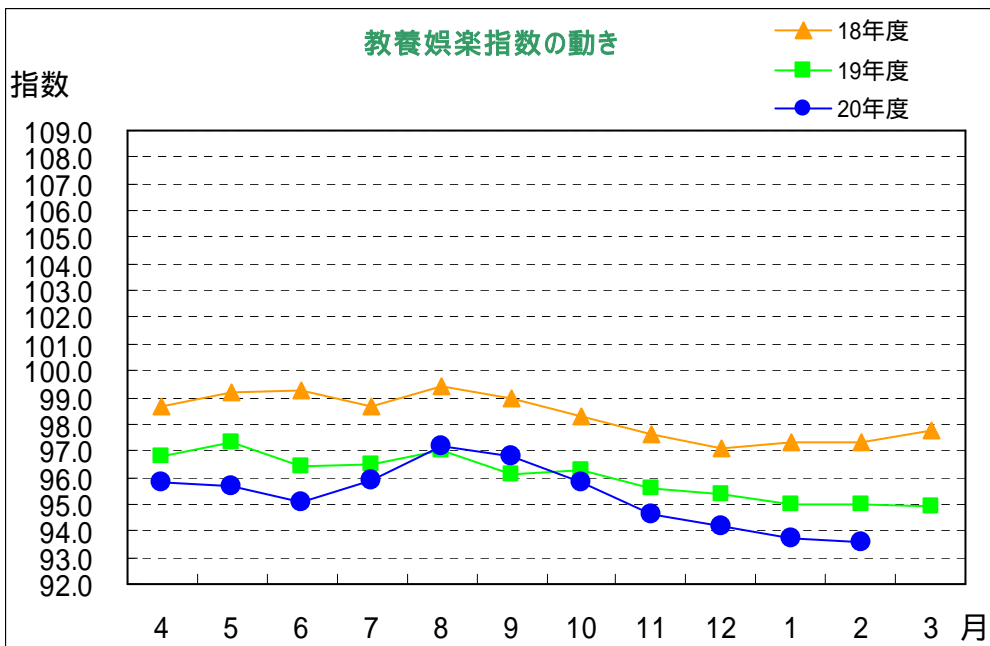
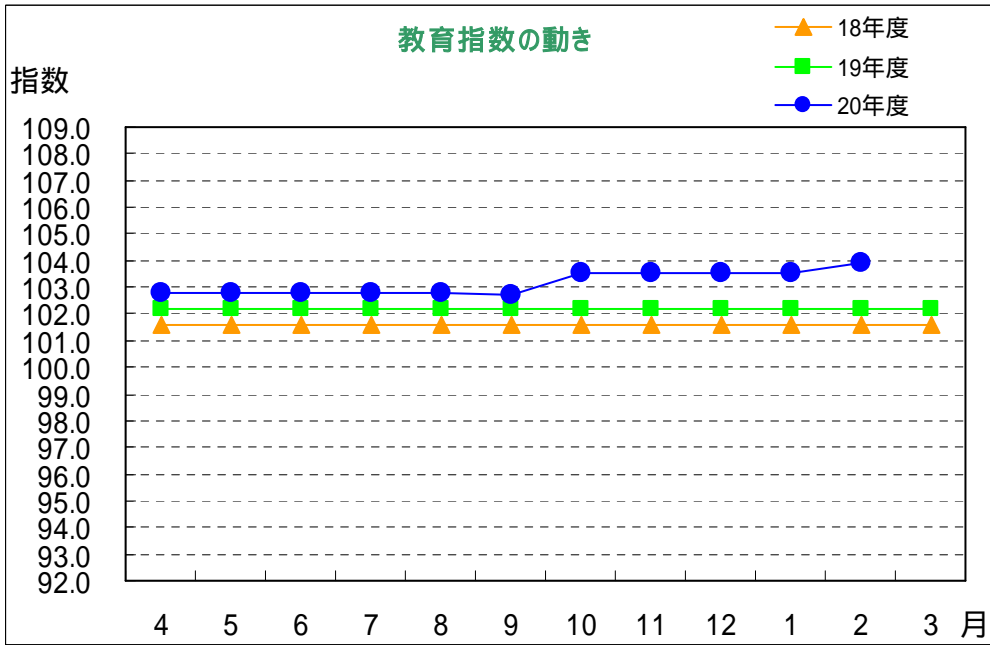
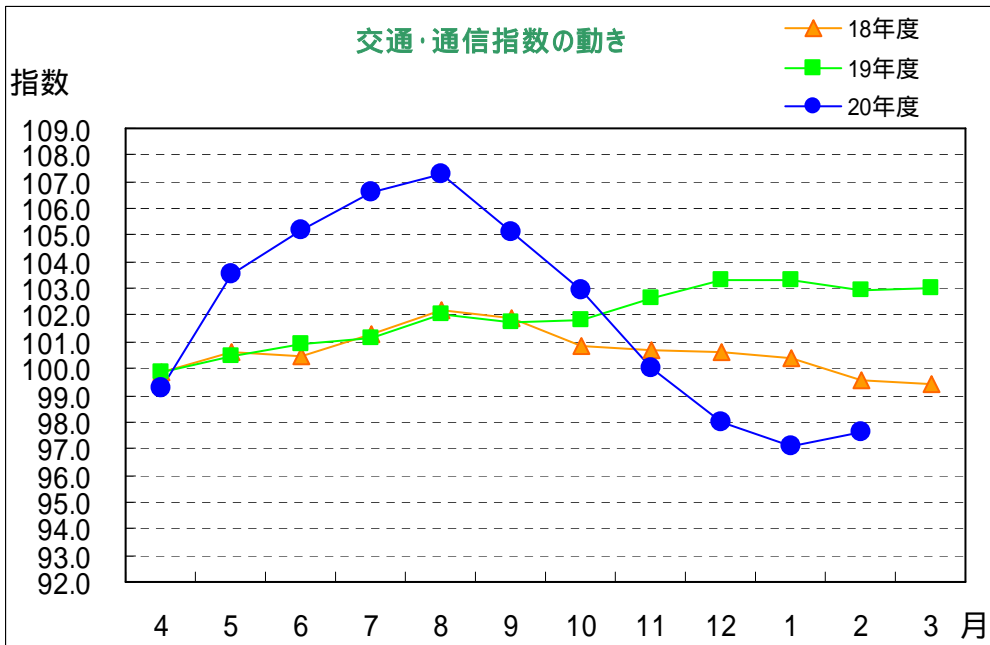
注) 生鮮食品(生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物)については、小分類指数です。

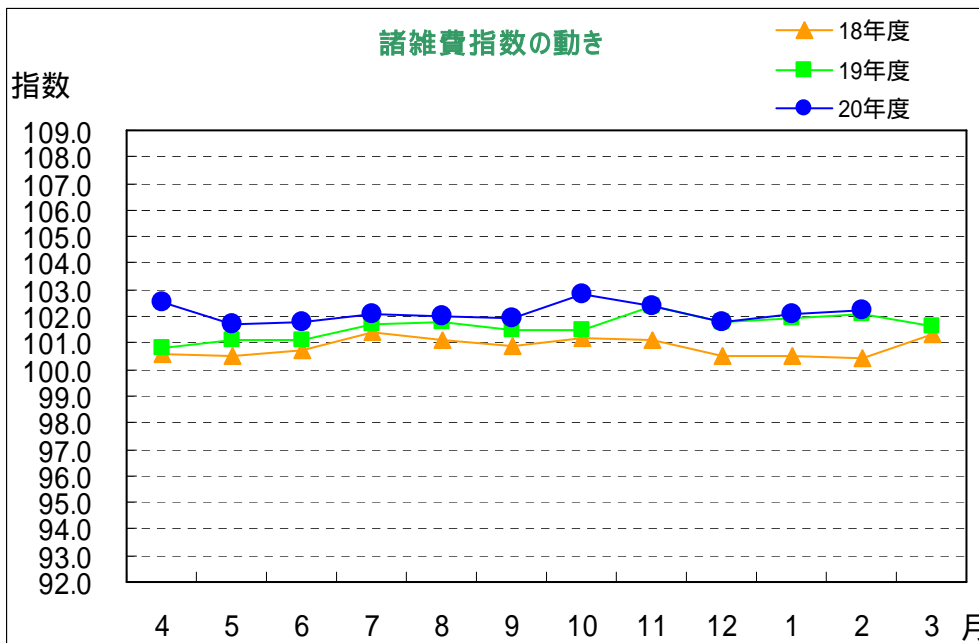
8.10 大費目別の年度比較











【参考】

消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃4品目を加えた585品目です。これらを大分類したものが10大費目です。